

大雪に伴う今後の農作業について

平成24年3月21日
北海道農政部

大雪の影響で融雪の遅れが予想される地域では、は種や育苗作業の遅れが懸念されることから、作物ごとのは種や移植期の晩限を考慮し農作業を行う。

特に降雪の多かった空知総合振興局と石狩振興局(石狩北部)の農業改良普及センターでは、ホームページで積雪情報と予想融雪日を公開しているため、今後のは種・移植・耕起などの農作業計画の参考にする。

表1 平成24年3月20日現在の主なアメダス地点の積雪深と平年値

地 点	最深積雪深 cm (H24)	最深積雪深 cm (平年値)	根雪終日 ¹⁾ (平年値)
札幌	51	50	4月3日
旭川	85	59	4月8日
留萌	84	44	4月5日*
岩見沢	144	66	4月6日*
小樽	77	76	—
倶知安	173	138	4月18日*
網走	53	26	4月3日
帯広	45	17	3月21日
苫小牧	21	3	—
函館	42	6	3月13日

1) 1981～2010年の平年値、*は1971～2000年の平年値。

第1 水稻

1 水田の準備

(1) 融雪材による融雪促進を行い、融雪後は溝切りなどによりほ場の乾燥化を図り、耕起は遅くとも5月中旬までに終える。

2 育苗ハウスと苗の準備

(1) 育苗ハウスのビニールの展張は遅くとも4月中旬までを目標とし、置き床の早期乾燥と地温の上昇に努める。

(2) 地域で苗が不足する場合を想定し、予備苗を協同で利用できる体制を検討する。

3 は種時期及び移植適期

- (1) は種日は育苗型式毎の移植適期及び育苗日数から逆算して決定する。
- (2) は種時期は、中苗マットでは4月後半（遅くとも5月初めまで）に、成苗ポットでは4月中旬（遅くとも4月下旬まで）に行う。
- (3) 移植終了目標は5月25日までとするが、移植晩限（中苗マットは5月31日、成苗ポットは6月5日まで）までに移植を終えられるよう計画的に作業を進める。
- (4) 直播栽培の場合、は種作業は、乾田直播では4月末～5月上旬に、湛水直播は5月中旬までに実施できるよう計画的に作業を行う。

第2 畑作

春まき小麦

融雪の促進と融雪水の早期排出に努め、ほ場の乾燥を図りできるだけ早期には種する。春まき小麦のは種晩限は4月末日までであり、は種時期が遅れると生育期間が短縮され子実重が低下する。5月上旬は種では1～3割、5月中旬は種では2～4割低下する事例が見られている。は種時期が大幅に遅れる場合には、他作物への転換を検討する。

なお、碎土・整地及びは種作業を過湿土壌条件で実施すると、土壌物理性が悪化し排水性の不良による生育抑制に繋がるので避ける。

第3 園芸（野菜・花き）

1 定植遅れに対応する備え

- (1) 育苗は低めの生育適温で管理し、かん水もやや控えて苗質の硬化を図るとともに、育苗日数に応じて追肥を行い苗質の低下を軽減する。
- (2) 購入苗が納品された場合は、適切な低温管理で一時保管を行い、定植までの苗質維持に努める。また保管が長引く場合には、ポット仮植育苗での対応も検討する。
- (3) ハウス準備・復旧等で大幅に定植が遅れる場合、作物変更の検討や作型・作期変更に伴う育苗計画の見直しを図る。その場合、移植後でも一定期間苗の管理を行うなど、予備苗を協同で利用できる体制を検討する。

2 たまねぎ

早出したまねぎの移植晩限は、4月30日頃である。融雪の遅れが予想される地域では、あらかじめ適温域内の低めで管理して移植時に老化苗にならないようにする。

また、移植が大幅に遅れる地域では、移植後でも一定期間苗の管理を行うなど予備苗を協同で利用できる体制を検討する。

なお、碎土・整地及び移植作業を過湿土壌条件で実施すると、土壌物理性が悪化し活着不良による生育抑制に繋がるので避ける。

お問い合わせ先：食の安全推進局技術普及課（電話011-231-4111 内線27-823）